

# 精神病院つばき荘

## 岡山公演

作：くるみざわしん

演出：トレンブルター

出演：土屋良太

川口 龍

近藤結宥花

あまり知られることのない精神病院。その中でとある事件をきっかけに繰り広げられる、院長・入院40年の患者・ベテラン看護師の葛藤。そして…

### ★倉敷会場

10月22日(土)

13時半開演(開場13時)



倉敷市民会館大会議室

(倉敷市本町17-1)

### ★岡山会場

10月23日(日)

13時半開演(開場13時)

天神山文化プラザ

(岡山市北区天神町8-54)

参加費：大人2,000円 大学生以下,当事者1,000円(自由席)

13:30~15:20上演 終演後トークショー (30分程度)

トークショーは山本昌知先生と、くるみざわしん先生を予定

主催：精神病院つばき荘を観る会

連絡先：090-2008-1538 (事務局虫明)

席数に限りがあります。定員になり次第締め切らせて頂くこと予めご了承下さい。

～主催者あいさつ～

## 互いの世界を理解し合うことの大切さを考える機会に



精神科医

山本 昌知

(「精神病院つばき荘」  
を観る会 代表)

2020年5月16日、17日、演劇「精神病院つばき荘」岡山公演を企画しました。観る会の実行委員会を立ち上げ、チケット販売にとりかかったところで折あしくコロナ禍に見舞われ、公演を中止せざるを得ませんでした。

コロナ感染の第6波までを経験し、「正しく恐れ、活動をする」方向への転換が始まりました。私たちは、コロナ禍を体験するなかで、時と場を共にしながらも、不安と不信のなかで生きているように思います。安心できる社会構築のための土台であるコミュニケーションの機会が阻害され、コロナうつ、自責うつ、テレワークうつ、巣籠りうつ、などの造語が氾濫するようになりました。「人はどこまで相互理解が可能なのか」、「病とはどういうものなのだろうか」、考えさせられる毎日です。

この度再度、劇団「トレンブルシアター」とのご縁をいただき、演劇「精神病院つばき荘」を公演する運びとなりました。この演劇は、単なる精神病院の描写を越えたテーマを扱っています。私たちにとって、互いに相手の世界を理解することがどれほど大切で、どれほど難しいことであるかを考えさせてくれる、そんな演劇なのです。皆さんと共に考え深める機会となれば、これにまさる喜びはありません。

演劇「精神病院つばき荘」への期待



堀井 茂男

慈圭病院  
理事長

新進気鋭の劇作家(精神科医) くるみざわしんさんの力作が岡山にやってきました。この演劇は、精神科病院のこれまでのいろいろな問題に対して真摯に向き合う姿勢の大切なことを教えてくれています。私は、精神病院というとき、旧い体質の医療を連想します。私たちは、障がい者(当事者)の自由の束縛や隔離・拘束を最小限にする、出来ればなくしたいと努力をしてきました。精神科医療はこれまでの制限や規則の世界から当事者一人ひとりの思いを大切にする医療に大きく変化してきているのです。一人ひとりの皆さんと共に生きる、一人ひとりのかけがえのない存在の皆さんと共に歩むのが私たちの職場である精神科病院だと考えています。当事者の皆さん、一人ひとりの思いを大切に、その人の生活と関わらせて戴きたい：という思いを頭に置きながら、「精神病院つばき荘」を観たいと考えています。

私も推薦します  
岡山県の精神医療の  
前進を期待します



大森 文太郎

岡山県精神障害者  
家族会連合会会長